

科目名	自立活動の指導の実際 入門編 (S)				B
	サブタイトル	教育としてのアプローチとは何か			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	講義 実習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目	自立活動教諭				
科目コード	B148S				
科目区分	こころとからだの関係				
使用教材	教科書	・『新しいうんどう』、西郷建彦（著）、「ジダイ社」、2023年			
	参考書等	・『筋の機能解剖』、John H. Warfel（著） 矢谷令子／小川恵子（訳）、「医学書院」、1993年、第4版			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちに、どうしても必要な共通的学习内容を学び、かつ指導方法を習得することで、基本となる自立活動の指導ができるようにする。 また、教育である自立活動と、理学療法などの医療との違いを明確にし、教育としてのアプローチとは何かを理解する。				
キーワード	教育とは／自立活動／ボディ・イメージ／教科書／「基本のうんどう」				
テキストの内容 及びアドバイス	本書は、障害のある子どもにとって、必要最低限の学習内容を、いろいろな指導方法を総合的に使って指導できるようにプログラムされた内容になっている。また、必要な医学的知識も自然と覚えられるように構成されている。 まずは、テキストに従い障害のある子どもたちに「基本のうんどう」を繰り返し行い、自立活動における基本となる手技（触れる、動かす、揺らす）を獲得してほしい。				
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、教育としての理解と基本手技を学び、どんな障害のある子どもたちにも、共通的な自立活動の指導ができるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	①教育基本法から教育の目的を述べられる。 ②日本国憲法から教育を行う上での任務を説明できる。 ③自立活動を概括できる。 ④子どもの障害の状態や行動を受容する態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態や行動に共感する態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態や行動の変化を待つ態度をもっている。 ⑦子どもを包み込むような受容的な触れ方ができる。 ⑧子どもと一緒にいるような共感的なゆらし方ができる。 ⑨子どもの動きを待ちながら動かすことができる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。  1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育  ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習ぼうとする意欲、豊かな人間性			

		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質</li> </ul> <p>2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得</li> <li>社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力</li> </ul>		
	<b>学部</b>	<p>人間科学部</p> <p>人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。</p>		
	<b>学科</b>	<p>心身健康科学科に関連する項目</p> <p>2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること</p> <p>4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること</p>		
カリキュラムポリシーとの関連	<b>大学</b>	<p>人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る</li> <li>人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る</li> <li>様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る</li> <li>多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う</li> <li>現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る</li> </ol>		
	<b>学部</b>	<p>人間科学部</p> <p>人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る</li> <li>人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る</li> <li>様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る</li> <li>多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う</li> <li>現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る</li> </ol>		
	<b>学科</b>	<p>心身健康科学科に関連する項目</p>		
評価方法・基準		<p>評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。</p> <p>講義における授業態度(20%)と指導の実際の手技(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。</p>		
課題に対するフィードバックの方法		<p>スクーリング中に行われる講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。</p>		
スクーリング履修における授業準備(予習・復習)の具体的な内容及びそれに必要な時間		<p>【予習】 教科書を精読する。また、疑問点を整理しておく。(1コマにつき2時間程度)</p> <p>【復習】 教科書を見ながら、自分で体験する。(1コマにつき2時間程度)</p>		
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード(重要語句)	担当教員
	1時限	新しいうんどうとは	「新しいうんどう」とは何かを、教育の本来の意義から学ぶ。また教育としての自立活動を再認識する。	西郷建彦

		「基本のうんどう」／ボディ・イメージ／教育	
2時限	基本のうんどう	障害のある子どもたちすべてにおいて、共通的に必要と思われる学習内容で組まれる指導プログラムとして、「基本のうんどう」を学ぶ。  「基本のうんどう」／ボディ・イメージ／全体	西郷建彦
3時限	心を開くとき	「新しいうんどう」での基本手技としての、触れ方、動かし方、揺らし方を心身相関の立場から学ぶ。  受容すること／共感すること／待つこと	西郷建彦
4時限	自己への気づき	重度の障害のある子どもたちに、まず自己の存在に気づくような感覚体験をさせることを学ぶ。  手／足／身体／遠近	西郷建彦
5時限	呼吸（１）・排泄	腹部や頸部のボディ・イメージを正常かつ明確にして、それぞれ上下、左右の方向感覚を体験させ、呼吸の改善を図ることを学ぶ。  腹／上下／首／左右	西郷建彦
6時限	呼吸（２）・嚥下	背部、腰部、前傾部、唇部のボディ・イメージを正常かつ明確にして、呼吸や嚥下の改善を図ることを学ぶ。  背中／腰／のど／唇	西郷建彦
7時限	座位	背臥位から座位になり、立ち直りやバランス保持の経験を行うことで、より安定した姿勢がとれることを学ぶ。  立ち直り／バランス／脊柱入力／注視・追視	西郷建彦
8時限	基本のうんどうの実際	自己の気づきから座位までを通して行うことで、「基本のうんどう」を復習し、身体全体を教えることを学ぶ。  全体／評価／アセスメント	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。		
方略	まずは、基本手技である触れ方、動かし方、ゆらし方を理解し習得する。次に、ポイントとなる箇所を明確に意識しながら、正しい基本手技を使って役割（子ども側、教師側）を交代しながらお互いに体験する。この際特に、施行される側（子ども側）になった時に感じたことを大切にする。ややもすると施行する側（教師側）に力点が置かれやすいが、あくまでも学修は施行される側（子ども側）であることを忘れないでほしい。		
連絡事項	このプログラムはすべての障害のある子どもに必要なものです。できるだけ多くの障害のある子どもに、このプログラムを実施することによって、基本手技を習得できるはずである。触れる位置も重要なので、初めは教科書を見ながら行うことを推奨する。また実習時、される側になった時に気づいた感覚経験を大切にする。		